

安全データシート (SDS)

1 化学品及び会社情報

化学品の名称

製品名

ハイドロキャッチ (HYDRO CATCH)

会社情報

会社名

株式会社ファイトクローム

担当部署

研究開発室

住所

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2番11号

電話番号

03-4316-4920

Fax 番号

03-4316-4921

電子メールアドレス

緊急連絡電話番号

03-4316-4920

推奨用途及び使用上の制限

農業用途（土壌改良資材）

※上記用途以外に使用しないこと

2 危険有害性の要約

GHS 分類：

特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分2（中枢神経系 血液系）

特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分2（中枢神経系 呼吸器系）

GHS ラベル要素：

絵表示



注意喚起語： 警告

危険有害性情報：

- 臓器の障害のおそれ（中枢神経系 血液系）。
- 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（中枢神経系 呼吸器系）。

注意書き

【安全対策】

- 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- 取り扱い後は手をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

【応急措置】

- ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

【保管】

- ・施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・内容物/容器を関連法規に従って廃棄すること。

他の危険有害性

- ・特になし

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

組成及び成分情報

成分名称	CAS 番号	含有量 (%)	PRTR 種類 安衛法-通知義務 毒劇法	化審法 整理番号	化審法対象物質
ポロキサレン	9003-11-6	70	—	—	—
プロピレングリコール	57-55-6	5	該当 (安衛法)	2-234	優先評価化学物質
その他成分	—	25	—	—	—

濃度限界未満だが SDS 作成濃度以上の成分：該当なし

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合	新鮮な空気の場所へ移し、安静にする。異常があれば医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹸で洗浄する。異常があれば医師の診断を受ける。
眼に入った場合	清浄な水で 15～20 分洗眼し、必要に応じて医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぎ、無理に吐かせない。異常があれば医師の診断を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

症状： 皮膚に触れると、その部分がかぶれることがある。

影響： アレルギー反応、皮膚炎、発赤、炎症を引き起こす可能性がある。

医師に対する特別な注意事項

応急措置、汚染除去、対症療法。 症状に応じて処置すること。

5 火災時の措置

適切な消火剤

アルコール耐性の泡、ABC-粉末、二酸化炭素、霧状の水

使ってはならない消火剤

棒状注水、勢いよく噴き出る水、水のジェット噴霧。

電圧が存在する場合、水や泡を消化剤として使用することは出来ない。

特有の危険有害性

燃焼または分解生成物にさらされると、健康に害を及ぼす可能性がある。

消火を行う者の保護

適切な保護具を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

作業の際、吸入や皮膚に触れない様、適切な保護具を着用し、換気を良くして処理する。

環境に対する注意事項

排水溝や公共水域への流入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏出源を遮断し、漏れを止める。

漏出した液を容器に出来る限り集める。

不燃性の吸着材を用いて集める（ふき取る）。

二次災害の防止策

吸着材等で回収し、適切に処分する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

取扱いは、換気の良いところで行う。

安全取扱い注意事項

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。

適切な保護具を着用して作業を行う。

接触回避

「10 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

保管

混触禁止物質	酸化剤、強酸、強塩基。
適切な保管条件	適切な換気のある乾燥した暗所（5～35℃）に保管する。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない。

許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

ACGIH TLV-TWA (2024)	設定されていない。
ACGIH TLV-STEL (2024)	設定されていない。
日本産業衛生学会（2024）	設定されていない。

設備対策

取り扱いの際は、全体換気を行う。

保護具

呼吸用の保護具	必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	保護手袋を着用する。
眼の保護具	保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	保護衣、長袖作業服等を着用する。

9 物理的及び化学的性質

外観 （物理化学的状態、形状、色など）	常温で茶色の液体
臭い	若干特有の臭いを有する
臭いの閾値	情報なし
pH	5.0-8.0
融点・凝固点	情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報なし
引火点	>60℃（60℃以上は未測定）
蒸発速度	情報なし
燃焼性	情報なし
燃焼範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度	情報なし
蒸気密度	情報なし
比重	1.04±0.05
溶解度	水溶性
n-オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし
粘度	情報なし

10 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	通常の条件下では、安定。
危険有害反応可能性	特記すべき反応性なし。
避けるべき条件	特記すべき条件はなし。
混触危険物質	酸化剤、強酸、強塩基。
危険有害な分解生成物	自己分解により有毒ガスを発生することはない。

11 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

特定標的臓器毒性（単回ばく露）	
プロピレングリコール（区分1）／プロピレングリコール（区分3（麻酔作用））	
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	
プロピレングリコール（区分1）	

成分の有害性情報

急性毒性（経口）	データなし
急性毒性（経皮）	データなし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	データなし
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
吸引性呼吸器毒性	データなし

12 環境影響情報

製品の環境影響情報

生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送 (ADR/RID の規定に従う)

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

海上輸送 (IMO の規定に従う)

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
IBC コード	該当しない

航空輸送 (ICAO/IATA の規定に従う)

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

国内規制

陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	該当しない

緊急時応急措置指針 (容器イエローカード) 番号

該当しない

特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
容器を転倒、落下等粗暴な取扱いをしない。

15 適用法令

毒物及び劇物取締法	非該当
化審法	優先評価化学物質：プロピレングリコール (2-234)

労働安全衛生法

表示対象物質：プロピレングリコール
通知対象物質：プロピレングリコール
(第57条第1項及び2項)

化学物質管理促進法 (PRTR 法)

非該当

消防法

非該当

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

16 その他の情報

参考文献

味の素ヘルシーサプライ株式会社提供資料

日本産業衛生学会 (2025) 許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2025) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2012 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更する場合があります。また、注意事項等は通常の実施を前提としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。